



新緑の気持ちのいい季節を音楽と♪

音楽を読む

『戦場のピアニスト』ウワディスワフ・シュピルマン
「心に響くショパンの音色」(スタッフ・I)『戦場のピアニスト』
ウワディスワフ・シュピルマン著
佐藤泰一訳出版社:春秋社
請求記号:W762.3/3
駅南図書館所蔵なし
(市内所蔵あり)

数々の賞を受賞した映画『戦場のピアニスト』には原作があります。ピアニストである著者によって第二次世界大戦後のポーランドにおいて『ある都市の死』の題名で1946年に刊行されました。日本語版は2000年に佐藤泰一の翻訳により刊行され、題名は当初『ザ・ピアニスト』でしたが、2003年の日本での映画公開にあわせて『戦場のピアニスト』に改題されました。この作品には音楽を通しての平和への願いが込められています。ナチスの迫害から、孤立無援の中で逃亡生活を続けていたシュピルマンでしたが、ある日廃屋で食べものをあさっていた中、やって来たドイツ軍将校ヴィルム・ホーゼンフェルトと鉢合わせします。ホーゼンフェルトは彼がユダヤ人ピアニストであることを知ると、家に残されていたピアノを弾くように命じ、何年もピアノを弾くこともできなかったシュピルマンは生き延びるためピアノを弾きます。彼の弾く「ショパンのノクターン嬰ハ短調」が廃墟の街に流れ出します。現在でもいまだ戦争が続いています。音楽の調べが平和へと届くよう祈りましょう。

ナクソスに
ログインして
アクセス!

原作では「ノクターン」ですが、映画で使われたホーゼンフェルトとの邂逅のシーンの曲目は「バラード第一番」です。どちらもナクソスで視聴できますので、聞き比べていただくのもいいですね。

「春初めてのカッコウの声を聴いて」フレデリック・ディーリアス
春を告げるカッコウの声(スタッフ・N)

クラシックにふれよう

暖かな日差しが心地よい季節がやってきました。春になり、進級・進学・就職など、環境に変化があった方もたくさんいらっしゃると思います。新しいことだらけの日々は、胸が高鳴ると同時に、何だか気疲れしてしまうこともありますよね。そんな時に聴いていただきたいクラシックをご紹介します。

フレデリック・ディーリアス作曲『春初めてのカッコウの声を聴いて』。1912年に作られた音詩で、『川面の夏の夜』とともに『小オーケストラのための2つの小品』を構成しています。第一主題は春の霞を思わせるような静かで柔らかなハーモニーで始まり、ノルウェー民謡をモチーフにした第二主題では、穏やかな陽光を感じさせるような牧歌的な風情を醸しだして、余韻を残したまま小品は幕を下ろします。ヨーロッパでは「春を告げる鳥」とされているカッコウの声はクラリネットで表現されており、時折聞こえるその音は、まるで本物のカッコウの鳴き声のよう。慌ただしい毎日のなかでほっと一息つきたいときは、春の訪れを感じながら美しい自然の中で微睡んでいるような心地になれるこの曲を、ぜひ聴いてみてくださいね。

ナクソスに
ログインして
アクセス!

「小管弦楽のための2つの小品」はナクソスでも90件ほどございます。ナクソスで鳥がさえずる心地よさを味わってひとときリラックスしてみてくださいね。



音楽とわたし

思い出の中のモーツァルト
(スタッフ・O)

父はクラシックが好きな人で、子どもの頃から家にはクラシックが流れていた。という優雅な家庭のように聞こえますが、ごくごく普通の家庭です。幼稚園児や小学生の私にはその良さは全く分からなかったし、テレビで流れる歌謡曲のほうが好きだった。習いたいと言って習ったはずのピアノも続かなかった……。長い年月が経ちクラシックの良さがようやくしみるようになり、色々聞くようになると小さい頃にBGMとして流れていたあの曲だと思ふことも多々。意識していなくても脳は覚えていたものですね。今となっては有難かった環境だったのかもしれませんが。父はモーツァルトやベートーヴェンが好きだったのだなと。懐かしみながらこれからも聴いていたいと思っています。



編集担当のひとこと

ナクソス・ミュージック・ライブラリーのID貸出サービスの開始から1年が経ち「えきなん音楽だより」も2年目を迎えました。今年度も皆さまにクラシックを身近に感じていただけるようなお便りをお届けしたいと思ひます。(貸出サービスもぜひご利用ください!)それでは次回もお楽しみに!